

やすらぎと感動の

— あかいがわむら —

赤井川村

人が集まる 美しいカルデラの里

■ 村勢要覧 2017 ■





やすらぎと感動の
—あかがわむら—
赤井川村
人が集まる 美しいカルデラの里

赤井川村は「日本で最も美しい村」連合の一員です。これは、フランスで最も美しい村」運動を手本に、将来にわたって美しい地域づくりを行い、景観・文化を大切にしていこうとするものです。

赤井川村は「カルデラの里」。村を囲む山並みは新緑から紅葉、銀世界へと変化に富み、見る者の心を潤します。また寒暖の差が大きいことから水稲、野菜、果樹、花きなど、多様な農作物が豊かに実ります。一方、さまざまなウインタースポーツが満喫できるキロロリゾートをはじめ、余市岳登山、溪流釣

り、落合ダム上流でのカヌーなど、アウトドアの楽しみも多彩です。

このような美しい景観、豊かな農産物、自然とのふれあいは、開拓以来、自然の恵みを活かしながら、多くの先人が努力を重ねて築き上げてきた村の財産です。また、子育てや新規就農への支援の充実により、移住者も増えています。平成27年には道の駅もオープンし、村を訪れる人の数は大きく伸びています。農業を中心とした産業と文化に誇りを持ち、オープンマインドで誰をも受け入れ、次代へと地域社会を継承していく。それがわが故郷赤井川村の本当の美しさかもしれません。



「日本で最も美しい村」連合ロゴマーク

「最も美しい村」とは、人の営みが生み出した美しさであり、その土地でなければ経験できない独自の景観や地域文化を持つ村である」という思いが込められています。



赤井川村のイベント

2月 シーニックナイト& ウィンターフェスティバル

村内の国道や道道などを中心に約2,000個のスノーキャンドルを設置し、あかりを灯します。冬ならではのイベントとして、スノーモービルやかまくら・滑り台などの雪遊びができるほか、約50発の花火が打ち上げられます。



3月 赤井川ジュニアクロスカントリースキー大会

毎年3月の第1日曜日にクロスカントリースキー大会が開催され、管内はもとより道内各地から小中学生が集まり、力走を見せてくれます。

8月 カルデラの味覚(あじ)まつり

各種イベント、農産物(メロン・スイカ等)食べ放題コーナー(1人500円)が人気で毎年1万人以上の方が訪れています。



10月 メープル街道393もみじ祭

毎年10月上旬の土曜日に行われます。平成27年からは道の駅あかいがわで開催され、各種イベントや農産物の販売などが行われています。

12月 トキワ・ニューイヤーズフェスティバル

毎年大晦日深夜から行われるイベントで、もちつき後にホットミルク、年越しソバが振る舞われ、参加者みんなで新年を祝います。



レジャー・イベント 赤井川村の楽しみ方

赤井川村は、雄大な自然に囲まれ、その自然を利用したさまざまな遊びができます。夏はパラグライダーやサッカー、パークゴルフなど、様々なスポーツを満喫でき、冬は北海道内でも有数の豪雪地帯のため、スキーやスノーボードなどのウィンタースポーツが楽しめます。



パークゴルフ



北海道で生まれたスポーツ。テニスボールぐらいの大きさの硬い球を使い、1本のクラブで36ホールを回ります。ゴルフをやったことのない方でも簡単にプレイできます。



フィッシング



ニジマスやヤマメ、イワナなどをスポーツ性の高いルアーやフライで釣り上げることができます。キャッチ&リリースが基本で、フライフィッシング教室もあります。



サッカー



赤井川村の自然の中に、全面天然芝のサッカー専用のグラウンドを整備しています。少年チームから大人の愛好者チームまで幅広く利用されています。



パラグライダー



幅広い年代が楽しんでいるパラグライダーを体験できます。手軽にパラグライダーで飛ぶ感覚を味わってみたい方におすすめです。赤井川村上空からは、ほかでは見ることができないカルデラ盆地を一望できます。



スキー・スノーボード



世界屈指のパウダースノーを誇る「キロロスノーワールド」。全長4kmを超えるコース距離と多彩なコースレイアウトで赤井川の良質な雪を楽しめます。すぐに乗れるリフトがあり家族連れにも人気です。



乗馬



小さなお子さんや、初めての方も安心して引き馬を楽しめます。馬の背の高い位置から見る景色はほかでは見ることのできない特別な絶景です。



ファンカヤック



ファンカヤックは、初心者でものんびり、気軽に水の上の楽しさを味わうことのできるフネです。安定性が高いので、小さなお子さんでも湖面を滑走することができます。

赤井川村 MAP



施設紹介

赤井川村の巡り方

赤井川村には魅力ある景観やお子さんからシニアまでが楽しめる施設がたくさんあります。自分のペースであなた好みのやすらぎと感動を見つけてください。

住所=🏠 電話番号=☎ 料金=¥ 営業期間・時間=🕒



8 赤井川カルデラ温泉 (保養センター)



赤井川村の憩いの場

🏠 赤井川村字赤井川71-2 ☎ 0135-34-6441
 ¥ 中学生以上400円、小学生200円、幼児無料
 🕒 10:00~21:00 月曜定休

7 道の駅あかいがわ (赤井川iセンター)



地元の食材を利用したパンやオリジナルジェラートを販売するほか、軽食コーナーや農産物直売所を併設しています。

🏠 赤井川村字都190-16 ☎ 0135-34-6699
 🕒 【5月~9月】8:30~19:00 無休
 【10月~4月】9:00~17:00 第1・3水曜定休

イチ押し！
スポット

おかげさまで大人気！
道の駅のパンのご購入はお早めに



5 コロボックル村



こだわりのホワイトアスパラが絶品

🏠 赤井川村字都209 ☎ 0135-34-6434
 🕒 要問い合わせ
 【カフェ】4月下旬~11月3日営業、売店は通年営業

6 AKAIGAWA TOMO PLAYPARK



ほかに、釣り場やキャンプ場も

🏠 赤井川村字明治56 ☎ 0135-34-7575
 ※要予約

2 キロ口温泉森林の湯



エステやリラクゼーションもあってお肌スベスベ

🏠 赤井川村字常盤128-1 ☎ 0135-34-7111 (代表)
 ¥ 大人1,100円、小学生800円、幼児500円(4歳以上)、3歳以下無料
 🕒 【平 日】15:00~23:00

3 キロ口リゾート



世界屈指のパウダースノーが楽しめる

🏠 赤井川村字常盤128-1 ☎ 0135-34-7111
 🕒 シーズン中無休
 【夏】テニス、パークゴルフ、アーチェリーなど
 【冬】スキー、スノーボードなど



新たな活力と 交流を生み出す あかがわ



観光・リゾート
農業とともに村の基幹産業である観光リゾートの振興に向け、「ギョロリゾート」の機能強化を側面的に支援していきます。また観光協会の組織強化のもと、「道の駅あかがわ」をはじめとする観光資源の一層の充実・活用を図ります。

新たな資源の掘り起こし、農業の村ならではの特性・資源を生かした観光リゾート機能の強化、知名度向上への取り組み等を進めます。



商工業・新産業
赤井川村の地域性に即した商工業の維持・存続に向け、国・道の融資制度の活用を促進していきます。それとともに、商工業振興の中心的な役割を担う商工会への支援を行いながら、商工業事業所の活性化や企業の立地に向けた取り組みについて検討していきます。

また、地熱開発事業については、赤井川村の新たな産業になりうる可能性を踏まえ、側面的な支援を行います。



雇用対策
各種産業振興施策を通じて、雇用機会の創出・確保を目指します。また関係機関との広域的連携のもと、就職に関する情報提供や相談の充実、職業能力の開発に関する支援等に努めます。

労働者の安定した雇用環境づくりに向け、季節労働者が通年雇用される仕組みづくりや、若者または非正規社員の正規雇用や育児休業など、就業支援の整備を促進する取り組みを推進します。

農林業

赤井川村の基幹産業であり、村づくりの中心である農業を維持し、さらに発展させていくことを目指し、農業生産基盤の一層の充実を図り、生産性を高めることを継続して実現していきます。そのために基幹水利施設の適正な維持管理、ほ場など各種基盤整備を進めます。

また後継者や新規就農者の育成・確保に向け、各種支援制度の充実を図るとともに、住宅の確保や優良農地の維持・確保に向けた取り組みを推進します。経営体制の強化を進めながら、売れる農産物づくりや環境に配慮した農業の展開、「道の駅あかがわ」の活用等による地産地消の促進、6次産業化、さらには有害鳥獣対策の強化など、多面的な取り組みを一体的に行っています。

森林については、木材の生産をはじめ、水源かん養や生活環境の保全などの森林の持つさまざまな機能が持続的に発揮されるよう、適正な森林管理・整備を進めます。地域材の利用促進のため、林産加工品の開発や住宅の新築・改築を支援するほか、公共建築物の木造・木質化を図ります。



村民の声

札幌の新・農業人フェアで「赤井川村しかない」と感じて研修を希望しました。

村民の声

●花好きが高じて農家に

私は花が好きで、20代の初めから十数年間、生花店に勤めていました。「自分で花を育てたい」と思い、札幌で開かれた「新・農業人フェア」というイベントに参加。そこに出展していた自治体の一つが、赤井川村でした。故郷の小樽に近く、役場の方も親切で、「農家になるなら、ここしかない」と、新規就農を決断しました。

●2年間の研修を経て、平成29年に独立

2年間の農業研修中は村の公営住宅に住み、トルコキキョウとパプリカの栽培農家、育苗センターなどで学びました。そして今年の4月、ビニールハウス4棟(トルコキキョウとパプリカを各2棟)を借り、晴れて独立。でも、新入りでまだわからないことだらけです。こんな未熟な私に、周りの農家の方たちはいつも惜しげもなくアドバイスをくれます。また、村からは各種の補助を受けています。みなさんに支えられて、スタートが切れました。農作物は努力すればするほど、良い品質のものができます。初出荷はこれからですが、早くみなさんのレベルになれるよう日々精進しています。



生花店に十数年勤務をしたあと、新規就農した農家1年生

ちば ゆずる
千葉 譲さん



健やかで 安心して暮らせる あかいがわ



子育て支援

子どもの数が年々減少していく中、若い世代が出産や子育てに希望を持ち、安心して子どもを産み育てられるよう、保育所を統合し、保育体制を充実させています。それとともに子育てに関する相談・指導や学習・交流の場の提供、育児サークルの支援、保育料の無料化や中学3年生までの医療費の全額助成、給食費無料化など経済的支援を行い、村全体で子育てを支援する体制のさらなる充実を図ります。



高齢者支援

高齢化がさらに進む中、高齢者が生きがいをもって元気に暮らし、また、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるように支援しています。生きがいづくりや介護予防に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスや介護保険サービスの提供体制の充実を図ります。



障がい者支援

障がいの有無にかかわらず、地域の中で支え合い、ともに生きる村づくりを進めています。そのため、障がい者や障がいに対する村民の理解を促し、障がい者の社会参加に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスの提供体制の充実を図ります。

地域福祉

村民の福祉意識の高揚を図りながら、地域住民や福祉団体等による見守り、生活支援などの地域福祉活動の促進に努めています。また、すべての人が安全に安心して暮らせるよう、公共施設のバリアフリー化を進めます。



社会保障

村民が健康で心豊かに暮らし、安心して老後の生活を送れるよう、国民健康保険や後期高齢者医療、国民年金、生活保護などの社会保障制度の周知と適正な運用を図ります。



保健・医療

村民一人ひとりが生涯にわたって心身ともに健やかでいきいきと暮らせるよう、地域ぐるみで健康づくりへの体制を強化します。具体的には、保健事業の拠点である健康支援センターの適正な維持管理に努め、ふれあい支え合う地域づくりの推進や交流、情報交換の場としての充実を図ります。

また健康づくり推進協議会の組織体制の充実、保健推進員や食生活改善推進員の育成等により、広報・啓発活動を推進します。教室・講座・イベント等を通じて、肥満・運動・こころ・アルコール、たばこ・歯・食生活等に関する情報を提供し、正しい知識の普及や「自分の健康は自分で守る」という意識の高揚を目指します。

がん検診の方法や健康項目の充実について検討し、特定健康診査やがん検診の受診率向上に努めます。特定保健指導をはじめ、健康教育や健康相談等、予防を重視したきめ細やかな保健サービスの提供を図ります。

また、村立診療所について、医療機器の計画的な更新や医師の確保をはじめ、本村の医療拠点としての機能強化に向けた取り組みを進めます。



村民の声

子育て支援の内容が豊富で
地域の方々とのつながりも強く
安心して子どもを育てられます。



大阪から移住し、子育てサークルの代表となった
柳澤 智衣さん

●保健師さんからの丁寧なお手紙に感銘
私は大阪で銀行勤務をしていましたが、田舎暮らしを実現したいと夫婦で移住しました。娘の芽衣が生まれたのは、移住1年後の平成28年5月。生後しばらく体重が増えず、不安になって保健師さんに相談しました。その後丁寧なアドバイスが書かれたお手紙をいただき、保健師さんの励ましに心が温くなりました。月に1回「ひよこの会」という保健師さんに相談できる会もあり、頼りにしています。

●15人ほどの子育てメンバーで活動
「こっこクラブ」という子育てサークルでは、今年から代表を務めています。月に1回、健康支援センターのキッズルームに母子が集まり交流しています。天気良ければ、公園でお弁当を広げてピクニックも。村では保育所、中学生までの医療費が無料など、子育て支援の内容が豊富。おばあちゃん世代の方から「長くいてほしい」と言われ、野菜のおすそ分けなどもよくいただきます。地域に温かく支えられていることが、子どもにとっても幸せなことだと感じています。



将来を担う人を 育むあかいがわ



社会教育
村民一人ひとりが生涯にわたって学び、活動し、心豊かで充実した人生を送るとともに、その成果が社会で生かすことができる生涯学習社会。その実現に向けて、保健・福祉部門等と連携をとりながら、幼児から高齢者に至るまで、各世代の課題に応じた学習機会の提供を図ります。また、地域の人材や生活文化資源を活用して学ぶ場や自主的な学習活動の促進、読書環境の充実等に努めます。



スポーツ
子どもから高齢者まで、村民誰もが生涯にわたってスポーツに気軽に親しめるよう、体育館やプールなどのスポーツ施設の整備を進めています。体力向上や健康づくりにつながる取り組みを推進し、村民の要望に基づいた講習会や大会などの開催に取り組んでいます。また、各種スポーツ団体やサークル、ジュニアスポーツの活性化や、指導者の育成にも努めます。



国際交流

国際化に対応した村づくり、国際交流による人材育成や地域活性化に向け、北海道教育大学との連携による留学生の受け入れや中学生の海外派遣授業の継承と内容充実に努めます。



文化芸術

心豊かで生きがいに満ちた暮らしの確保と赤井川文化の継承・創造に向け、文化団体の育成や文化芸術の鑑賞・発表の機会を積極的に設けています。また、本村が誇る伝統芸能である「カルデラ太鼓」や「赤井川音頭」の保存・伝承に努めるとともに、老朽化が進む郷土資料館の建て替え等について検討していきます。



学校教育

子どもたちが新しい時代を生き抜く人材として、心身ともにたくましく成長できるよう、小学校と中学校の連携や義務教育9年間につながるをもたせた教育活動を推進しています。また各学校目標や経営方針に沿って、「チームあかいがわ」として地域に根ざした教育を展開していきます。子ども一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた適切な支援を図るとともに、地域の教育資源を活用し、保護者や地域と連携した教育活動を推進します。グローバル社会に適應できるよう、外国語教育や国際交流も進めます。教科学習や課外活動、発達段階に応じた学習サポート体制を充実させるとともに、健康な身体づくりにつながる施策を進めます。またICT環境や読書環境を整備するほか、高校生の自宅通学者支援にも努めます。良好な教育環境を確保するため、学校施設・設備は緊急性と妥当性を適正に判断し、計画的な更新と改修を図ります。家庭・地域関係機関と連携した学校内外の安全体制を推進し、いじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組みます。



村民の声

村全体で支え合う気風があり
子どもたちもそうした大人を見て
素直に育っています。

●PTAが図書室の運営に協力

PTAでは、今年から「図書ボランティア」を始めました。村民に声をかけて、学校図書室の管理・世話をしてもらいます。実は図書室に学校司書がいなかったため、昼休みしか開けていませんでした。そこで月に2日間ですが、ボランティアが午後2時半から4時まで図書室を開け、子どもたちが本に触れられる時間を増やしています。

●オーストラリア研修でたくましく

村の子どもたちは保育所から始めて中学校卒業まで、15年間一緒に育っていくようなもの。同時に村全体で支え合う気風があり、それが子どもたちにも伝わっているのか、素直に育つようです。しかし、一方でこの環境が居心地よく、外の世界へ出て行こうとしない子もいます。村では中学2年生にオーストラリア研修を実施し、ホームステイをさせています。行く前は「行きたくない」と言っていた子が、帰ってくると「また行きたい」と言います。小さな村だからこそ、大きな世界を知って成長してほしいと思っています。



赤井川中学校のPTA会長、
村の連合PTA会長を務める

さ さ き かず ゆ き
佐々木 和之さん

※ICT…コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称 (IT用語辞典バイナリより引用)



美しく快適で 安全なあかがわ



ごみ処理等環境衛生

環境への負荷の少ない循環型社会の形成に向け、北しりべし廃棄物処理広域連合による広域的なごみ処理体制の維持・充実、村民・事業者のごみ分別の徹底や3R運動の促進、不法投棄の防止に努めます。さらに新たなし尿処理体制の設備について検討・推進します。



上下水道

安全・安心な水を安定的に供給するため、簡易水道施設等の適正管理及び計画的な改修・更新、水質管理の充実に努めます。

また、美しく快適な居住環境づくりと河川等の水質保全に向け、全体計画に基づく公共下水道事業の計画的推進、整備された公共下水道施設の長寿命化及び未接続世帯の接続に努めるとともに、これら下水道整備区域以外においては、合併処理浄化槽の設置を引き続き促進します。

公園・緑化

公園は人々が水と緑に親しみ、いこい、交流できる場であり、子どもたちの安全な遊び場でもあります。カルデラ公園や、みやこ公園をはじめ、既存公園の施設・設備の適正管理に努めるとともに、村ぐるみの緑化を推進します。

また「豪雪地帯をさくら・もみじの名所へ」を合言葉に、地域の特性を生かした良好な景観の形成と村民の環境意識の向上のため、植樹等を行っています。



消防・防災

全国各地で頻発する大規模災害の教訓を踏まえ、北後志消防組合による常備消防・救急体制の維持・充実、消防団の充実を図ります。また、村民の防火・防災意識の啓発、防災行政無線の適正管理、防災資機材・食料の備蓄、河川の整備など、総合的な消防・防災体制の確立に努めます。

防犯・交通安全

犯罪のない住みよい村づくりに向け、関係機関・団体と連携し、村民の防犯意識の啓発や自主的な防犯活動の促進、防犯灯の整備及びLED化、悪質商法等による被害の未然防止に向けた取り組みを進めます。

また、交通量の増加や高齢化を踏まえ、関係機関・団体と連携し、村民の交通安全意識の啓発や交通安全施設の整備、チャイルドシート貸し出しなど、村一体となった交通安全対策を推進します。



環境保全・エネルギー

美しい自然環境・田園風景を誇る村として、環境・景観を守り、人と自然の共生が持続可能な村づくりを進めています。そのため、村一体となった環境保全・美化活動の促進や環境汚染の未然防止、太陽光やバイオマス、小水力などの再生可能エネルギーの利活用の検討など、時代に即した取り組みを推進します。

また、阿女鱒岳地域における地熱発電開発の調査をしています。赤井川の「カルデラ盆地」形状は、太古の昔、火山活動による隆起と陥没によってできたものと言われています。昭和56年に地熱資源調査を行い、現在では農業振興センターの育苗ハウスの融雪用や、赤井川カルデラ温泉に利用しています。

平成23年から地表調査が、平成25年からは調査用井戸の掘削が行われ、平成28年までに5本の調査用井戸が掘削されています。今後は実際の生産井・還元井と同規模の試験用井戸を掘削して、数週間の生産・還元能力試験を行い、これまでの調査結果に基づいて、地熱貯留槽を評価します。事業化可能と見込まれば、環境影響評価や発電に必要となる生産井・還元井の掘削や実証試験を経て、発電出力が決定され、地熱発電所の建設となります。



赤井川村の 素晴らしい環境を守ることで、 農業を次の世代につないでいきたいです。



「都地区資源保全隊」の代表で、サクラの植樹も続けている
よしかわ ゆきお
吉川 幸男さん

地区総出で用水管理やごみ拾いを実施

私は10haの稲作のほか、トウモロコシ、メロンなどを栽培する農家です。「都地区資源保全隊」というグループで、毎年決まった時期に農業用水路の清掃や畔の草刈り、道路のごみ拾い、外来種であるアライグマの駆除など、さまざまな環境保全活動をしています。グループ独自の活動のほか、行政と一緒に活動するものもあります。また、用水路の縁にサクラの苗木を植樹する活動も今年で7年目になりました。春になると、美しい光景が見られます。

この素晴らしい環境を次代に手渡していきたい

悩みは後継者が少なくなり、活動の人手が少なくなってきたこと。また、アオサギが増えるなど、生物相の変化も感じています。私自身は減農薬米を栽培し、自分で精米して札幌などの顧客に販売しています。これからの農家は、作物を作って、売って、環境保全もやっていると、オールマイティである必要があります。水をはじめとするこの素晴らしい環境が、おいしいコメを生み出す基盤であり、できる限り自分たちの手で地区の環境を守り、次代に手渡していきたいと考えています。



未来への基盤が整ったあかいがわ



道路・公共交通

村全体の発展と利便性・安全性の向上に向け、北海道横断自動車道(黒松内・小樽間)の整備を国に要請しています。また後志広域観光の周遊ルートの確立、泊発電所の災害対策、有珠山の噴火災害対策などのため、国道の整備促進を要請します。道道の整備についても、関係機関に積極的に要請していきます。村道については、整備とともに橋梁の長寿命化・除排雪体制の維持・充実を図っています。国道・道道の除排雪体制についても、維持・充実を要請していきます。

2030年度末開業予定の北海道新幹線新函館北斗・札幌間について、赤井川村でトンネル工事等が進んでおり、その円滑な実施のために、関係機関と連携していきます。また、この工事によって発生する土砂を受け入れた村有地を、公園化する構想を検討していきます。工事の実施や開通の効果が、赤井川村の活性化及び地域産業・経済の持続と発展につながるような取り組みを推進します。

民間の路線バスについては、村民の日常生活に不可欠な交通手段として、利用者の増加に向けた取り組みを行っています。引き続き助成を行い、路線バスの維持・確保、利用性向上等に努めます。



土地利用

村の美しい自然環境・田園風景と、村民の生活、産業活動とが調和した良好な地域環境を形成していく方針です。村の現状や将来の展望、社会環境の変化等を総合的に勘案し、各種計画の見直し・調整を適宜行います。これらに基づく適正な規制・誘導を行い、計画的な土地利用を推進します。

また、土地利用の状況を明確化し、さまざまな分野で活用していくため、地籍調査成果の有効活用を図ります。



住宅・定住・移住

定住・移住の促進と赤井川村らしい美しくてやさらぎのある住環境づくりに向け、村営住宅の建て替え・修繕を計画的に推進します。また宅地の分譲を検討します。

このような住宅施策と連動しながら、就農・田舎暮らしなど目的にかかわらず、移住希望者からの相談に対応できる窓口の設置を促しています。また関係機関・団体と連携し、移住をスムーズに実現できる仕組みの確立を図ります。



情報化

電子自治体の構築をさらに進めるため、既存の各種システムの維持管理・更新に加え、時代に即した新たなシステムの導入やクラウド化などを計画的に推進します。行政内部のICT環境と、自治体経営の効率化、村民サービスの向上を一層推進します。すべての村民が高速・大容量の通信環境を利用できるよう、光ファイバ網末整備区域の整備を事業者に働きかけていきます。

また、各種情報サービスを安全かつ円滑に提供するため、情報セキュリティ対策を推進します。村民の意識啓発と情報活用能力の向上、情報化を支える職員の育成に向け、ICTに関する教育・研修を行います。

KPI (重要業績評価指標)

指標名	単位	基準値	目標値
民間路線バス利用者数	人	11,268 (平成26年度)	11,300 (平成31年度)
Wi-Fi環境整備箇所	箇所	0 (平成26年度)	3 (平成31年度)

引用：平成28年3月10日発行「赤井川村創生総合戦略」

村民の声

人と人の距離が近く、つながりが濃い。子育て中の移住者も多く、「よそ者」の意識なくとけ込めます。



地域おこし協力隊をきっかけに定住した
なかむら ななこ
中村 菜奈子さん

「道の駅」のオープン準備が最初の仕事

私は平成27年1月に地域おこし協力隊に応募して、神奈川県から移住しました。仕事は「道の駅」のオープン準備、運営でした。ペーカリー担当でしたが、店舗のレイアウトからレジの設定まで、多様な仕事をやりました。「村の特産品を活かして、パンを焼こう」と、青大豆を入れた豆パンやウインナーパンなどを考え、好評をいただいているのがうれしいですね。ここは人と人の距離が近く、つながりの濃さを感じます。みなさん、自分のことだけでなく、人のことも考えて生活しているんだなと思います。だから、人の輪の中に自然にとけ込めました。

子育てが一段落したら、新しい活動を

夫とは職場で出会い、結婚。女兒が誕生して定住を決意しました。今は子育てが忙しく、活動の余裕はあまりありませんが、いずれは働くかボランティアなどの形で、地域おこし協力隊の続きをやりたいです。村に来る前にカナダとニュージーランドで2年間の海外留学・生活の経験があり、英語を地域の活性化に役立てるのもいいなと思っています。

ともにつくる 自立したあかいがわ



行政

各種の財政指標による財政状況の分析・公表を適時的確に行いながら、費用対効果や優先度、緊急性等を十分に勘案し、選択と集中による事業の厳選、ならびに財政配分を行う方針です。限られた財源を活用して自立した村を創造し、持続的に経営していきます。その実現に向けて、財政運営の健全化、事務事業の見直しや組織・機構の再編、定員管理の適正化、人材の育成など、さらなる行政改革を推進します。同時に、財政負担の軽減や将来を見据えた最適な公共施設の配置を目指して、総合的・計画的な管理に努めます。

また、村民の視点を重視し、窓口サービス体制の充実を図ります。行政の効率化と人々の利便性の向上、公平・公正な社会の実現を目的に導入された「社会保障・税番号制度」については、庁内体制の充実を図りながら、定着化に努めます。さらに、効率的な自治体経営の実現に向け、周辺自治体と連携して共同事業を進めていきます。小樽市の都市機能を有効活用して圏域全体の活性化を図るため、北しりべし定住自立圏共生ビジョンに基づく取り組みを推進します。



※定住自立圏共生ビジョン
…都市機能を有する市と近接する近隣市町村とが相互に連携し、役割を分担しながら暮らしに必要な機能確保していくための広域行政の取組（小樽市HP 定住自立圏構想より引用）

男女共同参画

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野に参画し、個性と能力を發揮できる男女共同参画社会。その実現のために、広報・啓発活動等を通じて、性別による固定的な役割分担意識の解消や男女平等の意識啓発を進めます。さらに政策・方針を決定する場への男女の参画、女性団体への活動支援などを図り、女性の能力向上を支援します。

また、男女間のあらゆる暴力の防止に向けた取り組みを推進します。



コミュニティ

自主的・自立的な地域づくり、支え合い助け合う地域づくりに向け、村内のさまざまな取り組みの紹介などを行っています。情報提供や啓発とともに、区会単位の自主的な活動への支援やコミュニティ施設の修繕・改修を引き続き推進します。より活発な活動が展開できるよう、支援施策の充実を検討していきます。

また、保健推進員協議会や交通安全協会など、自治組織を通じて各種活動を支援します。



協働の村づくり

村民や村民団体、民間企業等と行政が、夢と危機感を共有し、知恵と力を合わせた協働の村づくりを進めます。「広報あかいがわ」について、内容の充実や読みやすい誌面づくりなどを行うとともに、各種アンケート調査を充実させます。要請に応じて村政懇談会・説明会を開催するなど、広報機能を強化し、情報共有の一層の推進を図ります。また各種行政計画の策定、公共施設の管理や公共サービスの提供等への参画・協働の促進、村づくり団体やNPOの育成など、協働体制の強化を進めていきます。

また、イベントの企画・開催や審議会等の委員の一般公募を通じ、各種行政計画の策定など、村民参画・協働を促進します。



村民の声

「村民の健康推進」を目的に
50年以上続く活動。
コミュニティの維持に貢献しています。

●勉強会やイベントへの協力

保健推進員協議会は、村の各地区の代表者やボランティアなど、40名あまりで構成されています。「村民の健康推進」を目的に自らの資質を高める勉強、各地区の健康づくり活動への協力、健診の呼びかけなど行政への協力と、さまざまな活動をしています。最初は昭和40年に、村の委託で始まりました。

●空き店舗を活用してサロンも運営

平成28年6月に空き店舗を活用して、「地域サロンたんぼ」をオープンしました。週2回、コーヒーやお茶を無料で提供しています。昔話などのおしゃべりはもちろん、時にはマージャンの会を催すなど、地域の人たちの交流の場となっています。高齢者だけでなく、赤ちゃんを連れた若いお母さんも来ます。運営費は寄付してもらった食器、衣類、バッグなどのリサイクル品販売でまかなっています。人が集まることで少しは賑わいを取り戻せました。私たち委員自身の居場所にもなっていますね。助け合える人間関係や情報を確認し、コミュニティを維持していくことが大切だと感じます。



活動拠点の一つ
「地域サロンたんぼ」に集まった
保健推進員協議会のみなさん

むらに^{こい}戀してみませんか？

平成28年4月1日から、村内の定住人口増加と地域活性化を目的に「移住・定住支援事業」が始まりました。



知っておきたい！耳より情報！

自然豊かな環境でお子さんをのびのび育てたい方へ

いろいろな子育て支援を実施しています。

出産後は、赤井川村の保健師がさまざまな健診を行うとともに、いろいろな相談に乗ります

居住している方がお子さんを出産した場合は、**20Lのごみ袋を200枚プレゼント**

2歳から、保育所にお子さんを預けても、**保育料は無料**

ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートを**無料で貸し出し**

小学校・中学校へ通うお子さんの**給食費は無料**

中学校卒業までのお子さんの**医療費は無料**

小学校・中学校へ通うお子さんの**キロロスキー場のシーズン券は無料**

小中学校修学旅行等の旅費の一部助成

部活支援事業(各大会への参加の旅費助成)

パパがちょっとだけ早起きして、赤井川村から職場に通勤してみませんか？
(車通勤で余市町まで約18分、小樽市まで約45分、札幌市まで約90分)



カンガルーに触れることもできるよ！



中学生海外研修授業(10日間)

無料で海外語学研修！

中学2年生になると、全員がオーストラリアの姉妹校に語学研修へ。ホームステイも体験します。

研修先：メルボルン市内ストラスマア中学校
主な視察先：ボンダイビーチ、セントメアリー大聖堂



65歳以上の方へ

特典があります。



赤井川カルデラ温泉にいつでも無料で入浴できます。(毎週月曜日休館)

70歳以上になると**毎年敬老年金が支給**されます。

移住・定住支援事業

赤井川村に10年以上居住する方へ

300万円

の住宅建設資金を支援します。



支援対象

村内に建築基準法その他関係法令に適合した住宅を新築し、その住宅に住所を有し、10年以上居住する方

- 移住… 他市町村より移り住むこと(住民登録が必要)
- 定住… これからも村で生活しようと思っている方(建て替え、新築の方)

対象住宅

専用住宅

自ら居住する2LDKまたは3DK以上の新築住宅(風呂、トイレ付)

併用住宅

店舗・事務所兼用の場合であっても、居住部は2LDKまたは3DK以上の新築住宅(風呂、トイレ付)

共同住宅

1棟6戸以上のもので、1戸の居住部が1LDK以上の新築住宅(各屋に風呂、トイレ付)

支援内容

専用住宅

300万円

併用住宅

300万円

共同住宅

1棟6戸以上の住宅に対し、1戸あたり**300万円**

優遇措置

新築住宅建設後、3年間は**固定資産税半額**

支援事業の期間

平成28年4月1日から平成38年3月31日までの10年間

※水道給水区域、除雪路線内など建設時の注意事項がありますのでお尋ねください。

村長・議長ご挨拶



「やすらぎと感動の
赤井川村 人が集まる
美しいカルデラの里」
を目指して

赤井川村 村長 馬場 希

赤井川村は「カルデラの里」として知られているとおり、札幌圏に隣接しながらも周囲を山々で囲まれた自然豊かな環境を活かした農業と観光業を主産業とする農村です。

当村は、先人の方々が築き上げた村の環境や地域資源を後世に引き継いでいくため、平成17年に「日本で最も美しい村」連合の理念に賛同し設立から参加・活動を続けております。近年では、30年後に、春は「さくら」、秋は「もみじ」でいっぱいのにしようと住民と一緒に植樹活動に取り組んでいるところであり、「やすらぎと感動の赤井川村 人が集まる美しいカルデラの里」を目指しています。

当村も他の自治体と同様に人口減少や住民の高齢化、働き手不足などへの対応が大きな課題になっているほか、住民ニーズは、農業の振興と農村環境の保全、保健・医療・福祉の充実を重視する傾向が強まっており、多様化する住民ニーズに対応するため、住民とともに協力・協働する姿勢を前面に打ち出し、これらの課題解決のための取り組みを進めたいと思います。

この村勢要覧を通じて本村の魅力に気づいていただき、さらなる村の発展にお力添えをいただければ幸いです。



住民の声に耳を傾け
「地域の活力」や
「住民の活力」を
生み出す手助けを

赤井川村議会 議長 岩井 英明

今日の我が国は、少子高齢化・人口減少の急速な進行をはじめ、地方における景気低迷の長期化、環境保全・再生エネルギーなどの意識の高まりなど、社会環境は大きく変化してきています。このような中、当村では、地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るため、平成28年度に第四期総合計画を策定し、取り組みが進められているところです。

近年、地方分権や地方創生といった国の政策の中、「地域の活力」「住民の活力」が今後の村づくりに必要不可欠なものとなってきております。私たちは、その活力を生み出す手助けができるよう、住民の声に耳を傾け、住民ニーズに対応できるよう活動を進めてまいります。



赤井川村は

2019年6月10日で

開村120周年を迎えます。

1899年6月10日、大江村(現仁木町)から分村し

「赤井川村」が誕生しました。

それ以来、120年になろうとする歳月を歩み続けてきた赤井川村は、

今「日本で最も美しい村」連合の加盟村として

「さくら・もみじのふる里」を合言葉に活動しています。

この地で育まれてきた歴史と産業、そして人々が力を合わせて発展を続け

「人と自然が育む美しい村」の実現を目指して

日々邁進してまいります。



村の木 シラカバ



村の花 ムラサキヤシオ

アクセス 主要都市への距離と時間

都市	距離	車での時間
余市町	12.9km	車で約18分
仁木町	14.5km	車で約20分
倶知安町	33.1km	車で約40分
小樽市	32.4km	車で約45分
札幌市	69.8km	車で約90分
新千歳空港	119.1km	車で約110分

赤井川村



村章

中の菱形は、赤井川村の赤を図案化したものであり、また、整然と区画された八つの形は近代的農業の限らない発展を意味しています。外形の円は、独特の盆地に囲まれた赤井川村の平和と団結を象徴したものです。菱形の緑は、近代的農業を意味し、外形の赤は村民の団結と協調により輝かしい未来を築かんとするエネルギーを象徴するものです。(昭和43年6月10日制定)



お問い合わせ先

赤井川村役場

〒046-0592 北海道余市郡赤井川村字赤井川74番地2
TEL.0135-34-6211 FAX.0135-34-6644 <http://www.akaigawa.com/>

赤井川村

検索

